

2010年6月11日

株式会社 エコス

代表取締役会長 平 富郎 殿

全労連・全国一般労働組合千葉地方本部

執行委員長 三枝木 丈志

労働組合 袖ヶ浦陸会

執行委員長 神 宣彦

団体交渉申し入れ書

貴殿におかれましては、益々ご清栄のこと存じ上げます、平素は主婦の店へのご指導ご鞭撻、誠に有難うございます。私たちは、株式会社主婦の店に働く労働者でつくる労働組合とその上部団体です。株式会社主婦の店に働く労働者は、不安と焦燥の中で日々の営業に力を尽くしています。株式会社主婦の店の経営に重大な影響を発揮されている貴殿に団体交渉の申し入れを行います。

昨今の経済状況は一段と厳しく、生鮮食料品を取り扱う小売業としての経営努力が求められる一方で、地域顧客のニーズや小回りのきく店舗が強く求められています。しかし、株式会社主婦の店の経営は、地域のニーズと真っ向から対立する方向で進んでいるため経営危機が加速しています。

2009年6月4日袖ヶ浦市根形公民館2階視聴覚室で開催された「経営の経緯の説明会」で貴殿が「主婦の店」の経営の方向性として「宍倉社長を中心に、従業員一丸となつての事業再建に向けて努力し、個人個人の家庭に一銭でも多く入れるように、1品でも多く販売する」と発言され、従業員一丸となつて邁進してまいりました。現在「主婦の店」では、貴殿が社風を変えろとして「風を通す」とのお考えに基づいてご推薦し宍倉社長が任命した御社元常務取締役森優一氏中心になり業務が進んでいます。森氏は「主婦の店」専務取締役として実権を掌握し株式会社主婦の店の人事・営業・総務・販売促進など全業務について、全従業員を指示命令下においています。この6月末日をもつてのぞみ野店閉鎖が通告されました。さらに店舗の閉鎖や従業員の削減など社内での不安、不満、緊張、焦燥が高まっています。店舗の改装、安売り競争を推進した上での今度の決定は、店舗閉鎖、リストラへ道を開くための計画的な経営危機づくりとの批判が出ています。のぞみ野店は地域に密着した住民のライフラインでもあるため、地域のお客様の不安ははかりしれません。森専務を中心とする経営陣は、地域住民に対する説明も殆どなく、一方的な通告でことを済まそうとしています。このような不誠実な経営は、今後の弊社の運営にとっても暗い影を落としさらなる経営危機が危惧されます。

貴殿の昨年の言明からしても、赤字を理由に閉鎖、リストラは許されません。赤字を自らつくり加速したのは、採算を無視した安売りや店舗の改装を進めた森専務と経営のトップに原因が有るのです。森専務を推薦し物流部門を掌握した貴殿に責任が有ります。経営危機の責任を従業員に転嫁することは許されません。

このようなことを続けていては、経営は一段と悪化の一途を辿り状況は、更に悪化します。重大事態に対し私たちは、労使間の話し合いを申し入れています、労働委員会さえ無視して、会社側は話し合いを拒否し続けています。

地域住民には、一方的な店舗閉鎖で、後は野となれ山となれ、働く者には首切り、リストラ、パワハラ、いじめなど法律違反、主婦の店の就業規則さえ踏みにじる無理無体の限りを尽くしています。

この状況の改善を私たちは強く望み、貴殿に次の通り申し入れます。

記

- 1、主婦の店のぞみ野店閉鎖を見直すこと。
- 2、株式会社主婦の店と私たち労働組合との団体交渉開催を促進すること。

以上